

株式会社デジタルメディアプロフェッショナル

第 23 回定時株主総会 質疑応答要旨

【ご質問 1】

取締役選任にあたってどのような考慮をされたのか、今後の人選の考え方は？

【ご回答 1】

スキルマトリックスを用いて経営戦略や事業戦略に照らして必要なスキル領域を特定しております。備えるべき専門性は、企業経営、マーケティング、会計、法務・リスク管理、ガバナンス、コンプライアンスに加え、当社の事業内容等を考慮したテクノロジー・半導体に関する知見、創業来当社の利益の源泉である IP をはじめとした知的財産、海外人材が多く所属しているため国際性などを考慮して役員を選定しています（山本）。

【ご質問 2】

今後の成長分野として特に注力すべき領域とそのリスクとチャンスについて教えてほしい。

【ご回答 2】

当社は、アルゴリズムとソフトウェア、ハードウェアを総合的に取り組むことができる点を他社にない強みとしています。特に AI 分野においては、必要な機能を AI で実現するための半導体開発が重要であり、日本国内で AI プロセッサのコアを持っているのは当社を含めごく少数です。この重要なアセットを活用した半導体開発を含む事業展開が、当社の今後の成長を牽引すると考えています（山本）。

【ご質問 3】

当社の強みである画像認識と LiDAR を併用することの意味を教えてください。

【ご回答 3】

当社の関連する業界では、テスラのように画像認識のみで対応する企業もあれば、LiDAR を採用する多くの企業があるなど、同じ分野においても対応は様々です。当社としては、食品工場等の特殊な環境では画像認識が必須なケースもあれば、多くのお客様が LiDAR を必要としている現状もあるため、お客様のニーズに応えられるよう両技術を並行して提供し、あるいは組み合わせで対応していきます（山本）。

【ご質問 4】

エッジ AI 半導体事業（Di1）の具体的なターゲットや分野を教えてください。

【ご回答 4】

Di1 について、現段階では具体的な案件をお伝えできませんが、いくつか案件が進行しており、例えば、ドローンの分野などでは、具体的な開発を進めています（山本）。

【ご質問 5】

第 22 期、第 23 期、第 24 期と、売上・利益が踊り場にあるように見える。その理由について教えて欲しい。

【ご回答 5】

次の成長に向けた半導体開発などの戦略投資やロボティクス・FA 分野への取り組みに伴う、一時的な転換期とご理解いただきたく存じます（山本）。

【ご質問 6】

2028 年 3 月期、2030 年 3 月期の売上目標値をどのように達成していくのか。

【ご回答 6】

中期的には、2028 年 3 月期にはアミューズメント事業と同程度の売上をエッジ AI 半導体事業・FA 事業で作り、2030 年 3 月期にはエッジ AI 半導体事業がアミューズメント事業と同程度あるいはそれ以上となることを目指しているところです。中期ビジョンの達成に向けて、成長分野への展開や、新規事業機会の獲得を進めていきたいと考えています（山本）。

【ご質問 7】

高い技術力をもつ会社として、モラル・倫理観を伴った能力獲得・開発が重要と考える。この点、当社の取り組みを教えてほしい。

【ご回答 7】

当社ではダイバーシティを重視し、各国の技術者が異なった視点から議論することで皆が成長できる環境を目指しています。実際、当社で仕事をし、エヌビディアをはじめとしたトップ企業で活躍している人材もいます。そういったロールモデルのもと、明確な技術レベルを設定しており、これが社員の高いモチベーションになっていると考えています（山本）。

以 上